

令和6年度 江戸川区立南葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○進んで学びくふうする子 ○思いやりのある子 ○健康でたくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・児童にとって、学ぶ喜びや楽しさを実感でき、安全・安心に過ごせる学校 ・教職員にとって、使命感と熱意をもち、子供とともに成長できる学校 ・保護者にとって、安心して子供を預け、子供の成長が期待できる学校 ・地域にとって、学校と連携して教育活動を行い、ともに子供を育てる学校
前年度までの本校の現状	成果	課題	・南小スタンダードを基にした、学習規律の徹底と共通した授業の展開。 ・体力向上のための授業展開・休み時間の活用。 ・管理職候補、主任教諭等の人材育成や児童指導力や保護者対応力の向上 ・不登校対応

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」自己（学校）評価(A~D)	「中間」学校関係者評価(A~D)	「年度末」自己（学校）評価(A~D)	「年度末」学校関係者評価(A~D)	次年度に向けた改善案		
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント				
学力の向上	○児童が「できた！わかった！！楽しい！！」が実感できることによる知識技能の習得	・問題解決の過程を重視した学習スタイルの徹底。 ・学習規律の徹底（南小スタンダードの徹底）	・「めあて・まとめについて」教員肯定的評価100%、児童自己評価肯定的評価95%	B	B	C	・「めあて・まとめ」の板書の仕方統一、掲示物の共通を図っている。教員自己評価70%児童自己評価87.5% ・南小スタンダードを全教室に掲示し、徹底を図っている。	B	・後期に、達成できるように、継続して指導をお願いします。全校学力テストで大幅に平均正答率が向上してきて、すばらしい。	B	・「めあて・まとめ」の掲示物の確認を行った。定めない学級等に配布を行い、掲示物を使用し、板書の仕方統一できた。 ・南小スタンダードを掲示し、意識して学習に取り組めた。また、毎月の部会報告で課題としてあった点にはその都度指導をし、改善を図ることができた。教員肯定評価 77.5% 児童肯定評価 90%	A	・児童肯定的評価90%から、学習の満足度が向上。 ・全国学力調査が都平均に近づいて少しずつレベルアップしているのが分かる。 ・タブレット学習（ドリルパーク）を活用し、既習事項の定着を図る。
	○主体的に学習に取り組む態度・思考力・判断力・表現力の育成	・校内研究の実施 ・子供の興味関心を高める課題設定	・「考えることが好き」児童自己評価80%「問題解決型学習」教員自己評価100%。	B	B	C	・校内研究を通して、問題解決の過程を重視した学習の充実を図っている。教員自己評価72.5% 児童自己評価72.5%	B	・家庭との連携も必要であろう。	B	・校内研究を通して、問題解決の過程を重視した学習の充実を図ることができた。校内研究の成果を各家庭にも共有していくことで、家庭との連携を図っていく。教員肯定評価 87.5% 児童肯定評価 90%	A	・大人になって必要な力なので、非常によい。児童が答えを見つけた時、たくさん褒めてあげてほしい。継続して進めてほしい。家庭と協力しながら、取り組んでください。
	○読書科の更なる充実	・司書教諭との連携及び学校図書館の利用	・クラスで月3回以上の利用 ・「読書が好き」児童自己評価90%	C	B	B	・司書の来校日には、毎回情報共有を行っている。 ・読書の学習発表会に向け、図書館を活用しながら各学年準備をしている。児童自己評価77.5%	B	・読べる学習発表会を楽しみにしています。	B	・司書が各学年に学習支援を行えた。読書科や他教科でも図書館活用できた。 ・昼休みの貸し出しには、多くの児童が借りに来たり、東葛西図書館の団体貸し出しを利用して、読書する環境を整えたり、すすんで読書できた。児童肯定評価 77.5%	B	・年間を通して、司書が授業支援や学習支援を行う。 ・学校図書館（2か所）の環境整理や東葛西図書館の団体貸し出しを活用し、読書環境を整える。
体力の向上	○体育授業の充実	・体を動かすことが楽しいと思える授業	・教員自己評価「授業向上について」肯定的評価90% 児童自己評価「運動は好きですか」肯定的評価80%	B	B	B	・年間指導計画に基づき、児童が「できる」「楽しい」と思える授業計画を図っている。教員自己評価82.5% 児童自己評価87.5%	B	・熱中症アラートが発出される中、体力向上をどのように進めたらよいか。	B	・「誰もが活躍できる、楽しいと思える」活動内容を各学年意識して取り組めるよう努めた。夏成期間は水泳の時期を変更。また体育館の有効活用を図って体力向上を目指していく。教員肯定評価 80% 児童肯定評価 87.5%	A	・設定されたOTだけでなく、随時先生方に対して必要な動き・支援を行っていく。 ・子供が活躍できる場や後も作っていくと良い。いろいろな運動でチャレンジしていきましょう。
	○休み時間の運動機会の確保・運動月間等の充実	・休み時間の外遊びの奨励 ・なわとび月間、かけあし持久走月間。運動遊びの充実。	・教員自己評価、児童自己評価「外遊び・体力向上について」肯定的評価80%	B	A	B	・「縄跳びウィーク」、「昼休みの遊具開放」、「南タイム」等、全校として運動機会の確保に取り組んでいる。児童自己評価78% 教員自己評価77.5%	B	・外遊びを積極的に取り組んでいる、すばらしい。	A	・先生方のご協力のもと、計画通りに実施し、児童の運動機会の確保に取り組むことができた。取り組み後の反省を集約し、次年度に生かしていく。教員肯定評価 80% 児童肯定評価 80%	A	・運動遊びを通して、運動好きな児童を育てているよう、意図的な活動を引き続き取り入れる。結果的に児童の運動意欲を高めていけるようになる。
	○食育の推進	・栄養教諭による食育指導の実施。	・全学級3回以上の食育の実施。	B	A	B	・教員と連携しながら、各学年の教科等で栄養教諭による食育指導を行っている。	B	・これからも、継続して指導をしていってほしい。	A	・各学年の関連する教科等で食育の授業を行ったことで、児童が食に興味をもち、給食の栄養バランスの良さを理解して意欲的に食べている。全学級3回実施予定（3月末までに）	A	・限られた予算の中で大変なか、授業を実施してほしい。食育の重要性を家庭とも連携していけるとよいと思います。成長盛りの子供たちは、食育は大事なもので、今まで通り継続してください。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の充実	・特別支援教室巡回指導の充実 ・巡回指導教員、SC、巡回心理士との連携。	・週1回担任と通級教員との打ち合わせの実施。 ・特別支援の視点を取り入れた授業の実施。教員自己評価90%	B	B	B	・担任と通級教員、SC、巡回心理士が連携を取りながら実施できている。教員自己評価82.5%	B	・これからも、継続して指導をしていってほしい。	B	・担任と通級教員が週1回の打ち合わせを実施し、連携を取りながら巡回指導を実施することができた。ゆりのき以外の支援が必要な児童についても、担任がSCや巡回心理士と連携して対応することができた。教員肯定評価 80%	B	・通級教員・SC・巡回心理士との連携を次年度も継続していくとともに、コーディネーター一問の情報共有もより密に取っていく。
	○ユニバーサルデザインの視点での授業改善・環境整備	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教育研修会の実施 ・主幹教諭による学習環境の確認 月1回	B	B	B	・ユニバーサルデザイン研修を実施し、個に応じた指導の充実をはかった。	B	・これからも、継続して指導をしていってほしい。	B	・ユニバーサルデザインラーニング（UDL）のほか、5月と2月に研修会を実施した。全教員がUDを意識した教室環境の整備を行っている。来年度も研修を実施し、UDLについての理解を深める。	B	・子供たちの個性・特性に合わせて、工夫や気遣いがなされていると思います。共生社会に向けた教育は一番大変だと覆います。心理的に難しさがあると思います。巡回心理士さんと連携を取りながら、継続してください。
	○エンカレッジルームの活用	・エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築	・協力体制表の作成及び随時対応 ・空き時間の職員待機率 100%	A	A	A	・エンカレッジルームの運用について教員の協力体制がうまく取れている。	B	・これからも、継続して指導をしていってほしい。	A	・エンカレッジルームの主担当が誰かを職員が準備できるように仕組みづくりをした。確実に運用できるよう次年度も課題があれば改善していく。	A	・お子様のため、頑張ってください。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校・いじめの未然防止並びに早期発見・早期対応	・学期に一回、生活アンケート・いじめ関連の道德授業の実施。 ・SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関と繋ぐ。	・年間3回実施率100%・いじめ解消率100%。 ・不登校児童との連携実施率100%	B	A	B	・いじめアンケートは、常に改善を図り早期発見に努めている。また、いじめ対策委員会を定期的召開し、全教職員で情報の共有を図っている。 ・SCやSSWと連携して、不登校傾向の児童や保護者との関係構築に努めている。	B	・いじめの定義を学年に伝えていて、すばらしい。	A	・いじめ対策委員会を中心に、全教職員が同じ歩調でいじめ防止に努めた。 ・年間3回のいじめアンケートで早期発見に努め、認知後も解消に向けて指導を継続できた。 ・SCやSSW、その他関係諸機関と連携して不登校児童とつながることに努めた。つながりもできていない児童0名。	A	・いじめの解消100%、先生方の頑張りの結果、引き続き期待。本當に嬉しいことだと思いますが、先生方がよく見ていてくれていたと思います。これからも、子供たちの様子をしっかりと早期発見し指導してほしい。
	○校内別室指導支援員の効果的な利用	・校内別室指導支援員制度の周知及び効果的な利用。	・利用児童、利用保護者へのアンケートにて肯定的評価80%	A	B	A	・昨年度に引き続き、校内別室指導制度の周知を図っている。 ・教室に戻ることが増えた児童や、毎日登校できている児童が多い。	B	・校内別室指導の効果を感じられるので、継続して指導してほしい。	A	・校内別室指導を通して教員に戻ることができたり、定期的に登校することができたりする児童が増えた。 ・利用児童肯定的評価100%、保護者肯定的評価100%	A	・ぜひ、継続をお願いします。校内別室指導の充実を図り、指導を続けてほしい。成果が上がっていることはすばらしい。関係機関と連携し、継続してください。
	○安全・安心な居場所づくり	・安全指導の徹底 ・けが、事故の防止と対応	・月1回の安全指導 ・即日対応	A	A	A	・児童への安全指導だけでなく、校舎内の安全点検を定期的に行っている。 ・けがや事故の未然防止を呼びかけている。	B	・これからも、継続して指導をしていってほしい。	A	・毎月の初めに児童に具体的な事例をもとに安全指導を行った。 ・今年度、大きな怪我や事故は起きていない。	A	・学校での事故・怪我は、大きな問題にならないので、今年度はよかったです。未然防止を呼びかけましょう。
学校（園）の実現 地域社会に開かれた	○取組の積極的な情報発信	・PTA活動、地域行事への参加、HPによる情報公開	・保護者アンケート肯定的評価80% ・学校HPの更新回数年間500回以上	A	A	A	・全教員が毎週1回以上HPをアップすることで、アップ数317回(9/19)と昨年度より大幅にアップされている。	B	・HPのアップ大変だと思うが、継続してほしい。	A	・ホームページアップ数720回（1月15日時点）と昨年から3倍近く更新できている。保護者の肯定的評価91%	A	・HPのアップは大変だと思いますが、引き続きお願いします。細やかな情報発信が重要だと覆います。
	○地域の教育資源を活用した授業の取組	・地域等への出前授業を実施する。 ・低学年は、地域見学を実施し、授業へ生かす。	・全学年出前授業を1回以上実施する。 ・児童自己評価「地域の行事に参加する」80% 教員自己評価「地域との連携」100%	C	A	C	・計画的に出前授業を実施している。2学期以降は、計画的に出前授業を実施し、新規に地域との連携を開拓し、強化していく。児童自己評価 72.5% 教員自己評価 65%	B	・田植えや稲刈りなどの態度がすばらしい。	B	・全学年計画的に出前授業を実施し、更に地域とのつながりを強化するために計画を作成している。児童自己評価75%教員自己評価75%	B	・協力者を探すことは、大変だとは思いますが、地域と関わることは、子供にとっても、たいへん津々なとおなので、継続してほしい。全学年が外部とコミュニケーションを取るのには難しいとは思いますが、アイデアを考え取り組んでください。地域活動に参加の取組よいと思います。受け入れる方も頑張ります。
	○学校関係者評価を活用した教育活動の改善	・外部アンケートの実施を行い、学校だよりへフィードバックを実施する。	・年間5回のフィードバック	B	B	B	・現在2回のフィードバックを実施した。これからも、保護者アンケート等を生かし、フィードバックを実施していく。	B	・これからも、継続して取り組んでほしい。	A	・学校公開・体育科学習発表会・南小フェスタのフィードバックを実施できた。	A	・1カ月に1回の学校だよりを読ませていただいています。いつも楽しみにしております。
教育の特色ある展開	○たてわり班活動による異学年交流	・たてわり班により、全校遠足・たてわり班遊びなどを実施。	・年間12回実施 ・児童自己評価「たてわり班活動」肯定的評価80% 教員自己評価「たてわり班活動の充実」100%	B	A	B	・毎回計画的に実施することができている。 ・6年生がリーダーシップをとり、各班協力して活動することができている。児童自己評価77.5% 教員自己評価90%	B	・これからも継続して指導をしてほしい。	A	・毎回計画的に実施できた。 ・6年生のリーダーシップのもと、班全員で協力して活動することができている。教員肯定評価 95% 児童肯定評価 77.5%	A	・縦割り班活動は意義がある事と思います。上級生にとって年長だという自覚が芽生え、下級生はお手本となる上級生を感じられるよい取組だと思えます。素晴らしい取組なので、継続してください。
	○ONSBの充実	・5、6年有志による管楽器バンドNSBを実施する。	・管楽器発表会に出演 ・発表の場の年間3回設定	A	A	A	・管楽器発表会、南小フェスタに向けて、週2~3回の放課後練習を設定し練習に取り組んでいる。 ・3月の学校公開での演奏会を予定している。	B	・楽しみながら、参加してほしい。	A	・週2~3回放課後練習を継続的に、行事に向けて意欲を高めた。 ・3月のさよならコンサートに向けて、内容や練習方法も児童が自主的に工夫しながら練習を進めている。	A	・次年度も休み時間、放課後の取り組みを進め、年3回の発表の機会を確保しながら進曲などにも児童の意見を取り入れた活動を進めていく。